

特別公開「雛と雛道具」展示作品リスト

NO.	名称	数量	年代	所蔵
弥千代の雛と婚礼調度				
1	やちよ ひな 弥千代の雛	1対	江戸時代後期	本館蔵(井伊家伝来資料)
2	やちよ ひなどうぐ 弥千代の雛道具	1揃 (85件)	江戸時代後期	本館蔵(井伊家伝来資料)
3	やちよ かご 弥千代の駕籠	1棹	江戸時代後期	本館蔵(井伊家伝来資料)
旧家の雛				
4	ひなだんかざ 雛段飾り	1揃	昭和時代前期	本館蔵(加納基弘氏寄贈)
5	こきんびな 古今雛	1対	江戸時代末期	本館蔵(高崎正之氏寄贈)
6	こきんびな 古今雛	1対	江戸時代末期	本館蔵(森嶋美代子氏寄贈)
7	こきんびな 古今雛	1対	江戸時代末期	本館蔵(家元幸子氏寄贈)
8	ひなごてんかざ 雛御殿飾り	1揃	昭和時代前期	本館蔵(青柳和子氏寄贈)
9	ひなごてんかざ 雛御殿飾り	1揃	明治33年(1900年)	本館蔵(山本高嗣氏寄贈)
10	ひなごてんかざ 雛御殿飾り	1揃	昭和時代前期	本館蔵(山田米子氏寄贈)
11	ごしょにんぎょう 御所人形	2軀	大正～昭和時代	本館蔵(山田米子氏寄贈)
12	まめにんぎょう 豆人形	1揃	大正～昭和時代	本館蔵(山田米子氏寄贈)

写真解説

1 弥千代の雛 一対 (作品リストNO.1)

男雛 高 30.6cm 女雛 高 24.7cm

江戸時代後期

本館蔵 (井伊家伝来資料)

雛段などに立てかけて飾る立雛という種類の雛です。衣装は紙製で、室町時代頃の形式の装束となっており、男雛は小袖と袴を着け、女雛は小袖に細帯を締めています。まるで団子に目鼻をつけたかのような顔は、次郎左衛門雛という雛の形式に則ったもの。あどけない顔立ちが愛らしい一対です。



2 弥千代の雛道具 一揃 (写真はその一部)

(作品リストNO.2)

江戸時代後期

本館蔵 (井伊家伝来資料)

貝桶や三棚、挟箱など85件からなるミニチュアの調度類。弥千代の婚礼に際し、婚礼調度を模して詠えられました。井伊家の家紋である橘紋と共に、根引きの小松、笹竹、梅枝の模様が描かれ、全体に統一感ある意匠となっています。



弥千代の雛道具のうち 貝桶と合貝

貝桶 高 各16.2cm

合貝 横幅 各2.2cm

合貝と、それを納める貝桶のセットです。合貝とは、蛤の右貝と左貝の一対を組合わせて遊ぶ遊戯具。遊び方はいくつか種類がありますが、貝殻の内側に絵や文字を書き付け、セットとなる貝を探して遊ぶ覆貝という方法が最も一般的です。

蛤などの二枚貝は、殻の接合部分が貝ごとに形が異なるため、決して他の貝と組み合わせることが出来ません。このことから、合貝は貞淑な女性の象徴とされ、婚礼支度の筆頭として、豪華な貝桶とともに詠えられました。この合貝も、小さな貝の内側に、草花などの絵が彩り豊かに描き出されています。雛道具の中でもとりわけ華やかな一品です。



3 弥千代の駕籠 1棹 (作品リストNO.3)

縦82.3cm 横112.2cm 高106.5cm

江戸時代後期

本館蔵 (井伊家伝来資料)

弥千代の婚礼調度として調えられた駕籠です。黒漆塗に井伊家の家紋の橘紋と、松平家の家紋の葵紋が、松竹梅の模様とともに金蒔絵で表わ



されています。随所に飾り金具が付けられ、内側には鮮やかな彩色で花鳥画が描かれています。

4 雛御殿飾り 一揃 (作品リストNO.9)

高 64.5cm

明治33年(1900年)

本館蔵 (山本高嗣氏寄贈)

紫宸殿を模した御殿の中に男雛と女雛、かんじょ 官女を、御殿の周りにはずいじん 隨身やしちょう 仕丁などを配した雛御殿飾りの一揃です。雛御殿飾りは、江戸時代の末頃から盛んに行われるようになり、明治時代には広く普及しました。

この御殿飾りは、明治33年(1900年)3月に生まれた千代という女性はつぜつくの初節句のために、京都で製作されたものです。御殿は大振りで、飾り金具をあしらったしとみど 葺戸やみす 房飾りの付いた御簾など、細部まで丁寧に作り込まれています。明治期の雛飾りを今に伝える貴重な優品です。

